

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502298		
法人名	有限会社 優コーポレーション		
事業所名	グループホーム 厚宮館		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条1丁目1番30-2号 (電 話) 011-802-3456		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目1番地第二道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年9月1日	評価確定日	平成21年9月15日

【情報提供票より】 (平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 15年10月20日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 12人、 非常勤 6人、 常勤換算 12.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費等:15,000円 暖房費:(11~3月)9,000円
敷 金	有 (40,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (9月 1日現在)

利用者人数	16 名	男性 3 名	女性 13 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.6 歳	最低 71 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医) 翔嶺館新札幌聖陵ホスピタル 医) 健友会平岡公園こじま歯科クリニック
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地にあり、季節の花々が植えられた遊歩道に面した自然豊かなグループホームである。木造2階建ての温かみのあるつくりで親しみやすく、エレベータやリフトつき浴室などバリアフリーが充実している。ホーム内は共用空間が広く家族用の個室もあり、ゆったりと過ごせている。職員や利用者も優しくゆったり過ごしており、笑顔や会話が多くの、高い満足度が伺える。花植えや草刈り、運動会などの地域の行事に積極的に参加し地域とふれあっている。親会社である医療機関との連携のもと、健康管理や食事管理に力を入れている。また職員の労務管理についても無理をさせないよう管理が行き届いている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」について、運営推進会議の活用、市町村との連携などにおいて改善されているが、介護計画の見直しなど、引き続き取り組みが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は職員と管理者が一同に会して意見を出し合いながら作成しているが、全職員による積極的な理解と作成とまでは至っておらず、全職員が自己評価に対する理解を深め、作成に主体的に参加するようなくみ作りが期待される。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は地域包括センターや住民代表などが参加して2~3ヶ月に1度開催されている。職員の異動や行事計画、外部評価などをテーマに意見交換され、議事録も整備されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	面会時や運営推進会議で家族の意見を収集している。玄関横に意見箱を設置し、投入用紙は選択式の様式にするなど工夫している。重要事項説明書に外部の苦情受付機関について連絡先を明示している。金銭出納報告については出納帳のコピーをホームだよりと一緒に家族に郵送するなど、報告の充実が期待される。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	利用者および職員が町内会の花植え、草刈り、運動会などに参加している。ホーム開設翌年からホームの夏祭りが開催され、近隣の方も参加している。消防クラブの少年による防災の呼びかけや、クリスマス時の訪問を受けている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の3つ目の項目に「地域社会の一員として積極的に地域活動に参加できる様支援する」という文言があり、地域密着型サービスとしての理念が確立されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関ホールやスタッフスペースなど見やすい部分に掲示されている。新人研修やミーティングで理念を共有化している。利用者能力の発揮や地域密着などの項目を職員が強く意識し、業務にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者および職員が、町内会の花植え、草刈り、運動会などに参加している。ホーム開設翌年からホームの夏祭りが開催され、近隣の方も参加している。消防クラブの少年による防災の呼びかけや、クリスマス時の訪問を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員と管理者が一同に会して意見を出し合いながら作成しているが、全職員による積極的な理解と作成とまでは至っていない。前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」についてある程度取り組まれているが、継続的な取り組みが必要である。	○	全職員が自己評価に対する理解を深め、作成に主体的に参加するようなくみ作りが期待される。また継続的な取り組み項目については計画的な実施を期待する。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括センターや住民代表などが参加して2～3ヶ月に1度開催されている。職員の異動や行事計画、外部評価などをテーマに意見交換され、議事録も整備されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターが運営推進会議に参加するほか、管理者が区の管理者連絡会に参加し情報交換を行っている。生活保護課や介護保険の担当者と日常的に連絡を取り合っている。		

4. 理念を実践するための体制

7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	カラフルで見やすいホーム便りを毎月作成し送付しているほか、医師の受診時の報告も適切に行なっている。個々の金銭出納の報告は家族の来訪時に行なわれ、ホームからの郵送による報告は行なわれていない。	○	個々の利用者の金銭出納についても出納帳のコピーをホームだよりと一緒に家族に郵送するなど、報告の充実を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で家族の意見を収集している。玄関横に意見箱を設置し、投入用紙は選択式の様式にするなど工夫している。重要事項説明書に外部の苦情受付機関について連絡先を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動は少なくなるよう努力している。2ユニット間での職員と利用者の交流を活発にして、担当者が替わる場合でも利用者のダメージが少なくなる様になっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は研修計画に沿ってOJTが実施されている。研修の年間計画が作成され、系列の医療機関主催による研修も行なわれている。各職員は外部研修も年に数回受講しているが、受講後の研修報告や情報の共有化は十分とはいえない。	○	研修受講者による研修報告・勉強会の実施および年間研修計画の計画的な実施強化が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム管理者連絡会を通じて他のグループホームとの交流を行なっているが、最近は相互訪問などの交流機会が減少しており、職員レベルでの同業者との交流機会は少ない。	○	今年近隣に移転予定の系列のグループホームや、その他系列のグループホームなどと協力して、職員同士の交流機会がもてるよう取り組みを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前になるべく本人が来て見学したりレクリエーションに参加して納得したうえで入居している。本人が来られない場合は職員が本人を訪問し、馴染みの関係を築くようにしている。入居後も早く馴染めるよう他の利用者との会話を促している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から料理や縫い物、野菜づくりなどを習ったり、昔話をしてもらうなど日常的に職員は学ばせてもらっている。職員は利用者を人生の先輩として尊敬して接している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	しぐさや表情などから思いや希望を把握している。センター方式による個々の利用者の情報シートを作成し、情報をユニット会議で共有しサービス提供方法を話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向、センター方式によるアセスメントをもとに介護計画を作成している。作成された計画を家族に説明し同意を得ている。ユニット会議で職員全員で話し合いながら各項目を検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は状況に応じて見直しを行っている。変化がなくても全員の介護計画を3ヶ月ごとに見直しするよう進めているが、実施できているのは一部にとどまっている。	○	利用者や家族の意見を確認しながら3ヶ月ごとに見直しを行なえるような体制が整備されるよう期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物支援のほか訪問の理美容やマッサージも利用している。週に1度の訪問看護を利用している。また2階に家族控室を配置し、宿泊や面談に活用している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関が親会社であり、2週に1度の往診および週に1度の訪問看護を受けているほか、他のかかりつけ医への受診支援を行なっている。受診結果についてはその都度家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化した場合の医療体制指針を利用者、家族と取り交わしている。医療行為が必要となる場合以外はホームでできるだけ支援する方針としており、医療機関や職員とも方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーに配慮し、言葉かけや排泄時の対応に注意を払っている。呼び名は「さん」づけが基本であるが、利用者の希望に応じている。個人ファイルの記入はスタッフスペースで行い、記録書類も安全に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内に1日の流れを貼り出しているが、それにとらわれることなく利用者の体調や希望、ペースに合わせて過ごしてもらっている。食事や入浴、散歩や遊びなども本人のペースを尊重している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は能力に応じて調理や下ごしらえ、後片付けに参加している。職員が利用者と一緒に会話しながら楽しく食事を摂っている。歌謡曲をかけ、なごんだ雰囲気をつくっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能で午後の時間帯が基本だが、希望があれば午前中の中入浴も可能である。週2～3回程度の入浴を行ない、入浴拒否の場合も清拭や足浴を実施するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭き、配膳下膳、洗濯物片付け、季節のお菓子作りなど個々の能力に応じて役割を担ってもらっている。カラオケ、体操のほか大正琴や踊りの鑑賞などのレクリエーション活動も行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム前に遊歩道があり、半数ぐらいの利用者が能力に応じて遊歩道の散歩や買い物に外出している。車椅子で周辺を散策したり、リフトアップシートのある車両を利用した外出も行なっている。年間行事の中で外食も企画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、ユニット出入り口および玄関とも夜間以外は鍵をかけていない。玄関・ユニットの両方にチャイムを取り付け、利用者の出入りがわかるようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	日中を想定した避難訓練を年1回実施しているが、地域の方の参加や協力依頼は今後の課題であり、職員の救急救命訓練の受講も十分とはいえない。	○	避難訓練については夜間想定の実施も期待される。また地域との協力関係づくりや職員の救急救命訓練の受講など充実を期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は委託業者の管理栄養士が作成したものを基本としており、カロリーや栄養バランスなどが把握できている。記録用紙に食事や水分の摂取量を記録し、個々の状況に応じて調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が広く、明るく、家庭的でゆったりした雰囲気となっている。トイレや浴室も使いやすく階段をなだらかにしたり、1階をリフト付きの浴室とするなど配慮している。季節に応じた装飾がなされ、カレンダーや時計なども家庭的で親しみやすいものとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者の居室には仏壇や馴染みの家具、生活用品が持ち込まれ居心地よく過ごせる場所となっている。部屋の壁にも利用者が自由に飾り付けをして楽しんでいる。		

※ ☐ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。